

血液がんの新しい治療法「CAR-T療法」を開始しました

当院では、2025年9月より血液がんの最新治療法「CAR-T療法」を開始しました。兵庫県播磨姫路圏域では初めての実施施設となります。

CAR-T療法は、患者さん自身の「免疫細胞(T細胞)」を使い「がんを見つけ攻撃できるように強くしてがんを攻撃する」新しいがん治療です。

CAR-T療法の仕組み

■ T細胞の採取

患者さんの血液からT細胞(免疫細胞)を採取する。

■ 遺伝子改変

アメリカの製薬企業に送り、T細胞にCAR遺伝子を導入し、がん細胞の目印(抗原)を認識して結合できるようにする。

■ CAR-T細胞の増殖

当院に送られてきたCAR-T細胞を体内に戻すと、がん細胞を見つけて活性化し、増殖してがんを強力に攻撃する。

CAR-T療法は、従来の治療などで効果が得られなかった患者さんにも効果が期待できるほか、一度の投与で長く効果が続く場合があるなど、非常に有効な治療法として注目されています。

当院血液・腫瘍内科では、チーム一丸となり、地域の患者さんご家族に寄り添った最新の治療を提供してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

第二血液・腫瘍内科部長 浅野 豪



手術用顕微鏡「KINEVO 900 S」を導入しました

当院は、2025年11月より最新鋭の手術用顕微鏡「KINEVO 900 S」の運用を開始しました。「KINEVO 900 S」を導入したのは、関西で2カ所目となります。

AI技術と4K3D可視化システムを融合したこの装置の導入により、脳血管障害や脳腫瘍など、極めて高い精密性が求められる手術の安全性と治療精度が劇的に向上します。

手術用顕微鏡「KINEVO 900 S」の特徴

■ AI協働ロボットによる自動制御

音声指示(「へい、キネボ」)や動きに連動して顕微鏡が自動で最適位置へ移動。手術中の操作時間を削減し、集中力維持と衛生管理を両立。

■ 4K3D映像で細部を可視化

従来では識別困難だった微細な血管・神経・腫瘍境界を高精細に確認でき、より正確で安全な手術操作を可能に。

■ 低侵襲化 & 手術時間短縮

重要情報の自動表示や自動フォーカスにより、手術時間が短縮し、患者さんの身体的負担の軽減と回復期間の短縮が期待されます。

AIと人の技術が融合した次世代顕微鏡です。当院は、地域の患者さんへ世界基準の低侵襲治療を提供していきたいと存じますので、今後とも何卒よろしくお願いいたします。

第一脳神経外科部長 高野 昌平



姫路赤十字病院だより No.51

心のかよう安全で良質な医療を提供します
— 挑戦と発展を続ける組織を目指して —

院長
岡田 裕之
Okada Hiroyuki



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

姫路赤十字病院

〒670-8540 兵庫県姫路市下手野1-12-1

電話 079(294)2251代

URL: <https://himeji.jrc.or.jp/>



ホームページ

姫路赤十字病院だより No.51

発行日 令和8年1月

発行 姫路赤十字病院

発行責任者 院長 岡田 裕之

編集責任者 広報推進室長 五百蔵 智明



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

姫路赤十字病院

❀ 年頭のご挨拶 ❀

謹んで初春のお慶びを申し上げます。地域の医療機関・施設の皆さま、ならびに医師会の諸先生方におかれましては、穏やかな新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。平素より当院の診療・運営に格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

2026年は十干では「丙（ひのえ）」十二支では「午（うま）」にあたり、「丙午（ひのえうま）」の年となります。かつては迷信により出生数が減少した年として知られておりますが、「丙」は太陽のような明るさと生命力を、「午」は力強い前進や成功を象徴するとされ、近年では新たな挑戦と発展の年として前向きに捉えられております。当院もまた、この年を新たな飛躍の年と位置づけ、挑戦と発展を続ける組織を目指してまいります。



当院は33診療科、560床を有する地域の急性期拠点病院として、がん医療、救急医療、小児・周産期医療を柱に、高度急性期から急性期医療まで幅広い分野で質の高い医療の提供に努めております。

がん診療連携拠点病院としては、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」を用いた低侵襲手術を積極的に推進しており、現在2台が稼働し、消化器外科、呼吸器外科、泌尿器科、産婦人科で実施しています。2024年度は416件を実施し、2025年度はさらに増加する見込みです。加えて、近畿地区でも有数の症例数を誇る消化器内視鏡による早期がん治療、肝細胞癌焼灼療法、化学療法、さらにはIMRT（強度変調放射線治療）による放射線治療も件数を伸ばしています。

また、耳鼻咽喉科頭頸部外科における内視鏡下甲状腺手術、頭頸部癌に対する光免疫療法、消化器内科による膵臓神経内分泌腫瘍に対する放射線内用療法（PRRT）も安全に症例を重ねております。さらに、造血幹細胞移植に加え、患者さん自身の免疫細胞を用いたCAR-T療法を昨年より開始し、兵庫県西部で唯一の認定施設として治療にあたっています。

「がんゲノム医療連携病院」としては、岡山大学病院と連携し、がん遺伝子パネル検査を実施しています。2025年11月からは院内で遺伝子パネル検査結果を検討するエキスパートパネルを開始しています。さらに非侵襲性出生前遺伝学的検査（NIPT）、造血器腫瘍の遺伝子診断であるヘムサイト検査も導入し、遺伝性腫瘍、小児難病、難聴、循環器疾患など幅広い分野で遺伝外来を展開しております。

当院は地域医療支援病院として、かかりつけ医の先生方からご紹介いただいた患者さんを積極的にお受けし、急性期治療を担っております。昨年度の救急搬送件数は5,491件、救急受診患者数は11,927件にのびりました。内科・外科一般救急に加え、脳心臓血管センターによる脳・心血管救急、総合周産期母子医療センターと

しての新生児・小児・妊産婦診療など、地域の「最後の砦」としての役割を果たしております。治療後は速やかに逆紹介を行い、回復期・慢性期医療へと円滑につなぐ「地域完結型医療」を推進しており、2024年度の紹介率は89.0%、逆紹介率は114.2%でした。

さらに、いわゆる「下り搬送」についても地域17施設と連携し、誤嚥性肺炎や尿路感染症、消化管出血などを対象に運用を拡大しています。

病診・病病連携の円滑化に向け、転院調整システム「CAREBOOK」を導入し、現在50施設にご登録いただいております。また、当院へのご紹介にはweb予約システム「refery」を活用し、現在5診療科で運用、今後さらに拡大予定です。

患者サービスの向上では、患者サポートアプリ「コンシェルジュ」により受付や待ち時間の短縮、院内動線の改善、会計待ち不要の「らくらく会計」を実現しています。さらに富士通と連携し、当院オリジナルの入院患者向けサポートアプリも運用を開始しました。病床改修も順調に進み、2026年度中に340床の改修を完了する予定です。

人材育成においては、2026年度も初期臨床研修医14名がフルマッチし、歯科医師2名を含め意欲ある若手が集っています。2025年には卒後臨床研修医機構（JCEP）の認定も取得しました。さらに当院独自のプログラムによる内科専門医、放射線科専門研修を行っています。2026年度からは当院プログラムでの産婦人科専門医研修も開始いたします。一方で特定看護師の育成にも注力し、現在38名が資格を取得しています。看護専門学校からは昨年卒業生44名中41名が当院に入職し、大きな力となってきています。

世界情勢の不透明さ、物価高騰、医療DX、働き方改革、そして本年は診療報酬改定の年でもあります。本体改定率はプラス3.09%とされ、今後の詳細が注目されます。変化の大きい時代ではありますが、当院の事業目標である「変化に即した組織を追求する」を胸に、環境の変化に流されることなく、地域に必要とされる機能を着実に整えてまいります。

これからも地域の医療機関・施設、そして医師会の皆さまと緊密に連携し、心のかよう安全で良質な医療の提供に全力で取り組んでまいります。

本年も変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

院長 岡田 裕之

